

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鳥羽高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

| | |
|----------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 Ⅲ・Ⅴ 】 |
| 2 実施対象者 | <p>スポーツ総合専攻 1年（男25名、女15名 合計40名） 2年（男25名、女15名 合計40名） 3年（男27名、女13名 合計40名）</p> <p>文科スポーツコース 2年（男23名、女15名 合計38名） 3年（男16名、女14名 合計30名）</p> <p>スポーツ・教養コース 1年（男17名、女13名 合計30名）</p> |
| 3 展開の形式 | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ ） ② 行事名（ オリンピック・パラリンピック教育講演会 ） ③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ） ② その他（ ）</p> |
| 4 目 標 (ねらい) | <p>オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020年東京オリンピック・パラリンピック(2021年実施)に様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。</p> |
| 5 取組内容 | <p>秋本真吾氏を講師に招き、『～速く走るために～』をテーマに講演と実技指導を行っていただいた。秋本氏は、全日本実業団 4×400mR 優勝、400m ハードルグランプリシリーズで2位、特殊種目の200mハードルにおいては22秒80のアジア最高記録、日本最高記録を樹立された。現在は、スプリントコーチとして、Jリーガー、プロ野球選手、ラグビー、アメフト選手など幅広くランニングのコーチとして走り方の指導を展開されると同時に、年間1万人を超える小中学生にも走り方教室を実施されています。</p> <p>講演では、速く走るための姿勢や足の運び方、腕の振り方、視線などを細かく分析し大変わかりやすく御指導いただいた。また、実技指導においては、秋本氏自ら示範を行い、熱心にまた丁寧に御指導いただいた。</p> |

| | |
|---------------------|--|
| 6主な成果 | <p>(1) 生徒感想</p> <p>①速く走るためには、姿勢づくりが大切であることを知った。日常生活の習慣で悪い姿勢をつくらないように気を配ろうと感じた。</p> <p>②走り方の構造を科学的に分析していただいて、とてもわかりやすかった。日々の練習から自分で振り返りながら取り組めると思った。</p> <p>③日頃から何となくカー杯走っており、速く走るための走り方を科学的に考えたこともなかった。御指導をいただいて、体の動かし方や連動のしかた等を意識して走ろうと感じた。</p> <p>④足が遅いことの克服は難しいと思っていたが、指導をしてもらったことを実際にやってみると自分の中でも効果が実感できたので、継続して取り組んでいこうと感じた。</p> <p>(2) 主な成果</p> <p>①速く走るために科学的な見地から講演をいただいたことで、生徒達はその動きを理解した上で、どうすれば速く走る動作につながるのかを考えながら、自分と向き合いながら試行錯誤して取り組むことができた。</p> <p>②仲間とコミュニケーションを図りながら取り組むことで、他者との体の使い方の違いに気づくと同時に、自らの体の特徴を知ることによって、速く走るためにどのような取組が必要なのかを知ることができた。</p> <p>③全ての専攻スポーツに共通することで、姿勢をつくる事の重要性を理解することができた。</p> |
| 7実践において工夫した点(事業の特色) | <p>事前学習をしたり、質疑の内容を事前に考えさせたりしたことで主体的に受講できた。</p> |
| 8主な課題等 | <p>(1) 継続的に取り組む事で、生徒達の意識改革につながる。</p> <p>(2) 講演をするに当たって講師費用が安価すぎる。素晴らしい講演をお願いするにはそれなりの代価が必要なので、体育系設置校合同で行うなど工夫が必要。</p> <p>(3) どんな競技でも良いが、実際にトッププレイヤーの試合の観戦や練習の見学ができる機会が欲しい。</p> <p>(4) 人間力を高める学習に繋がる為に、競技者以外の方々から学ぶ事も重要と考える。</p> <p>(5) コロナ渦で、講師の依頼と事業の実施に更なる負担がかかることを懸念している。</p> |
| 9来年度以降の実施予定 | <p>来年度も講演を実施しようと考えている。卒業生で活躍している大相撲の宇良和輝氏、アメリカ大リーグ所属平野佳寿氏、シンクロナイズドスイミング女子日本代表の福村寿華氏などを講師で調整しようと考えている。</p> |



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鳥羽高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

| | |
|---------------|---|
| 1実践テーマ | 【 I III V 】 |
| 2実施対象者 | スポーツ総合専攻3年（男27名、女13名 合計40名） 文科スポーツコース3年（男1名、女3名 合計3名） |
| 3展開の形式 | （1）学校における活動 ① 教科名（ スポーツ科学概論 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ） |
| 4目 標 （ねらい） | オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020年東京オリンピック・パラリンピック(2021年実施)に様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。 |
| 5取組内容 | 「パラリンピックについて知ろう」という授業を行い、パラリンピックの起源、これまでの経緯などに関する講義を行った。また「パラリンピック種目を体験しよう」というテーマで、シッティングバレーボールとガイドランナーを実践した。 ※3～4人のグループで、オリンピック・パラリンピックで実施されている種目の起源や歴史、ルールなどの理解を深めるため調査し、ポスターセッションを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる学校休業に伴い、授業時数の確保ができず実施を見送った。 |
| 6主な成果 | （1）生徒感想 ①シッティングバレーボール ○周りで観戦しているより、実際にやってみると相当、体力的にきついということがわかった。 ○1つの動作が制限されるだけで、これだけ不自由に感じるんだということを知った。 ○不自由ながらも仲間とコミュニケーションをとりながら行えてとても楽しかった。 |

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>②ガイドランナー ○目隠しをして走ることがこれほど怖いとは思ってもみなかった。恐怖の克服をすることがとても難しいと感じた。 ○競技者の視力の代わりにするために、細かな情報をわかりやすく瞬時に伝えてあげなければならないと感じた。ただ、全てを伝える事で逆に不安を持たせてしまうことにもつながるので、ガイドすることの難しさを感じた。 ○普段は気にならない段差や音などが、どれほど恐怖に感じるかを学んだ。音が情報源になるので、周りが騒がしいとより不安になることがわかった。</p> <p>(2) 主な成果 ①生徒からは、普段当たり前に行っている「立つ」「歩く」「走る」「見る」等の動作が制限される中でのスポーツ体験に、「難しい」「体力的にとってもきつい」「恐怖心の克服が難しい」等といった感想が寄せられた。実際に体験をしてみて実感したことも多く、障がい者スポーツへの理解が深まった。 ②パラリンピック種目の体験から、障がい者の日常生活やスポーツ活動に多くの課題があることを身をもって感じる事ができ、共生社会に向けて自身がどのように関わりをもつ必要があるのかを考える機会となった。</p> |
| <p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <p>実施種目の歴史やルールまたは活動の様子を事前学習した。</p> |
| <p>8主な課題等</p> | <p>今後も授業を通して体験学習を行いたいと考えているが、施設や用具面において整っていない現状がある。そこで、支援学校との交流が実施できれば、更に多くの教育効果が得られるのではないかと考える。</p> <p>一方、健常者側としてパラリンピック種目を支える実習などは非常に教育的効果が高いと感じるが、1時間の授業の範囲でどう行うのかを更に創意工夫する必要があると感じた。</p> |
| <p>9来年度以降の実施予定</p> | <p>(1) オリンピック・パラリンピック講演会の実施 (2) スポーツ科学概論にてポスターセッションおよび体験授業 (3) スポーツ総合専攻の卒業研究論文における課題研究および発表会 (4) 文科スポーツコース、スポーツ・教養コースの総合的な探究の時間における課題研究およびポスターセッション</p> |

